

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

全地点の表層で29℃以上となっているほか、水深5mでも29℃以上となっている地点があります。また、15m以浅で27℃以上となっている地点があります。

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最大1細胞/mL、プロロセントラム・シグモイデスが最大5細胞/mL確認されました。また、赤潮原因プランクトンであるメソディニウム・ルブラムが最大17細胞/mL、下痢性貝毒原因プランクトンであるディノフィシス属が最大1細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水では、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が青瀬山で0.07細胞/mL、下痢性貝毒原因プランクトンであるディノフィシス属が小筑紫中央で0.08細胞/mL、栄喜奥およびヒロウラで0.07細胞/mL、藻津で0.03細胞/mL確認されました。

アレキサンドリウム属およびディノフィシス属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (℃)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	プロロセントラム・ シグモイデス	メソディニウム・ ルブラム
A 藻津 (-/35.4m) 【09:13】	0	29.3	33.0	7.3	0	0	0	3
	★ 5	29.0	33.6	7.5	0	0	0	6
	10	27.5	33.8	6.7	0	0	0	0
	15	26.4	33.9	7.1	-	-	-	-
	20	25.7	33.9	6.3	-	-	-	-
B 大島中央 (-/32.1m) 【09:21】	★ 0	29.2	33.7	7.4	0	0	0	0
	5	28.8	33.8	7.4	0	0	0	4
	10	28.0	33.8	7.2	0	0	0	1
	15	26.4	33.9	6.5	-	-	-	-
	20	25.5	33.9	6.3	-	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/48.1m) 【09:30】	0	29.2	33.8	7.5	0	0	0	2
	★ 5	29.1	33.7	7.5	0	0	0	5
	10	27.6	33.8	7.1	0	0	0	6
	15	26.3	33.8	7.0	-	-	-	-
	20	25.3	33.9	6.5	-	-	-	-
D 栄喜奥 (-/13.2m) 【09:56】	0	29.4	33.7	6.9	0	0	1	1
	★ 5	28.7	33.8	7.2	0	0	0	10
	10	28.6	33.8	7.1	1	0	0	9
E ヒロウラ (-/24.6m) 【10:09】	0	29.6	33.6	7.0	0	0	2	4
	5	28.9	33.7	7.1	0	0	1	9
	★ 6	28.7	33.7	7.2	0	0	5	4
	10	27.8	33.8	6.3	0	0	2	5
	15	27.4	33.8	6.2	-	-	-	-
	20	26.9	33.9	5.9	-	-	-	-

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	プロロセントラム・ シグモイデス	メソディニウム・ ルブラム
	(m)	(℃)		(mg/L)				
F 青瀬山 (-/15.6m) 【09:47】	0	29.8	33.4	6.8	0	0	0	6
	5	28.8	33.7	7.1	0	0	1	17
	★ 10	28.3	33.8	6.9	0	0	1	5
	15	27.9	33.8	6.6	-	-	-	-

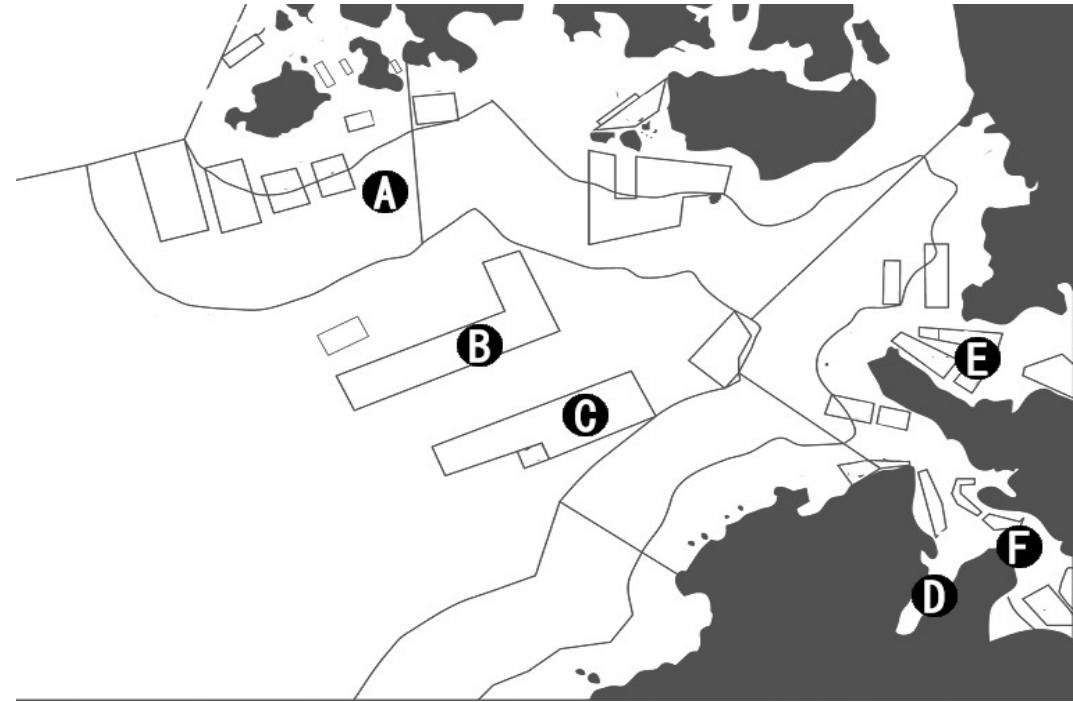
クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの
プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。
こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp)においてもご覧いただけます。

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—
コクロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度
※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 藻津
B: 大島中央
C: 小筑紫中央
D: 栄喜奥
E: ヒロウラ
F: 青瀬山